

令和2年度 第5回すぎっこひろば研修 まとめ
「遊びが豊かになるための教材研究 ～パネルシアターを通して～」

日時	令和2年8月4日（水）15時30分～17時
場所	就学前教育支援センター 資料センター
講師	杉並区教育委員会事務局 特別支援教育課 中村 和子
参加者数	私立幼稚園2名、区立保育園2名、私立保育園2名

※「子どもの発達や特性とパネルシアター」の教材研究として「はたらく車」「カレーライス」「バスのうた」の中から、作りたいものを選んで製作したが、時間の関係により、作業は途中までとなった。残りは持ち帰り、各園で今後の保育に活かしていくこととした。

1 子どもの発達や特性とパネルシアター（研修資料参照）

2 パネルシアターの基本、作成の工夫

- (1) 軽い。操作が簡単。絵人形が重ねられる(車庫と乗物・ポケットと中身など)ため、動き・変化を出すことができる。
- (2) 絵を描いたり、広告や写真を切り抜いたりしたものに、ピーペーパーをボンド、のりで付けるだけで良い。
※絵やイラストは、抽象的なイメージで分かりづらいことがある。写真の方が見たことがある・食べたことがある・知っているため、分かりやすいという子どもも多い。
- (3) 色彩がはっきりした、色が混ざっていない、速乾性があるマジック等が良い。
- (4) 輪郭をはっきりと描く。見せたい物をくっきりさせることが大切である。
- (5) お話にならなくても、子どもの好きなものを切り取って作ることも良い。子ども自身も喜んで見たり、作ったりする。
- (6) 有名なチェーン店のマーク等も子どもは好む。動物や乗物をシルエットにすると、よく見るようになる子もいる。

3 発達に特性のある子どもとの関わり方

発達に特性のある子どもと関わる際、どう楽しむか考える。シルエットクイズやブラックシアターなど、子どもによって好きなものはある。教材製作をきっかけに、その子への視点を変えられると良い。

日頃コミュニケーションがとれない子ども、内言語がある子どもに対し、どのようにきっかけをつくり、言葉を引き出すかが重要である。保育者も対応が大変と思うのではなく、今日も園に来てくれた、自分の関わり方次第で発想を次につなげられると思うと、子どももそれを察知してくれる。

子どもが「こちらを見ない」、「参加しない」、「出来ない」時、子どもに原因を求めがちだが、本当は保育者の指導や連携に原因がある場合もある。保育者のやり方次第で色々できる。